



波紋



QRコードで
すぐに接続

設立二十周年を迎えて

● 未来につながるNPO法人の運営を
● 鷹目兔耳、些細なことも見逃さない目、大切な声を聞き洩らさない耳を大切に
● 「子どもの成長を応援する関わり」の研究実践を
本年度もどうぞよろしく願っています

認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 山田 雅太

サポートセンターは、学校に行きたくても行けず悩んでいる子どもや学習についていけない子どもなどに、学ぶ場・憩いの場を提供することを目的に20年前に設立されました。

20年前の波紋創刊号（平成16年12月9日発行）は、井口衛初代理事長の次のような言葉が掲載されています。

『子たちに力を 子たちと夢を』設立のおもいを活動の目的をひとりひとりが抱きながら、わたくし達も子ども達と共に学び合い共に生きていきたい。

サポートセンターは、現在も悩んでいる保護者や子どもたちの力になつていきます。だからこそ、私たちは、この組織を未来につないでいく努力をしていかなければなりません。先の見えない揺れ動く時代に、何を変え、何を変えずにこのサポートセンターをつないでいくかという大きな課題をいただいているのです。

今、私たちは、サポートセンターの20年前の思いを大切にしながら、もう一度「子どもの声」を丁

寧に聞いていこうとしています。卯年のこんな言葉も見つけました。「鷹目兔耳（えんもくとじ）」、子どもや保護者の小さな悩みを見逃さない目と耳を持ち、子どもの成長をしっかりとサポートしていきたいと思えます。本年度も、どうぞよろしく願っています。



事業計画

本年度も「子たちに力を！」の理念に基づき、定款に定められた各事業をより効果的に進めていきます。また、設立二十周年を記念した事業を進めていきます。

- ①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
 - ア 教育・福祉相談事業（自主）
 - イ 支援を必要とする子の保護者の会事業（自主）
 - ウ 神奈川県青少年センター補助事業「フリースペース等事業費補助」

- ②適応指導に関する事業
 - ア 子ども包括支援事業（子どもサポート南野川）
 - イ 子ども・若者等支援事業（子どもサポート旭町）
- ③学習支援に関する事業
 - ア 学習支援事業
 - 地域子ども子育て活動支援助成事業（補助）
 - イ 学習支援・居場所づくり事業 川崎区（学習支援 川崎教室）
 - ウ 学習支援・居場所づくり事業 幸区（学習支援 幸教室）
 - エ 学習支援・居場所づくり事業 幸区（学習支援 日吉教室）
 - オ 地域の寺子屋事業（寺子屋 上作延）
 - カ 地域の寺子屋事業（寺子屋 ぎぬま）
 - キ 外国につながる子ども向け寺子屋事業（日本語支援 東小倉教室）
 - ク 外国につながる子ども向け寺子屋事業（日本語支援 幸町教室）
 - ケ 夏休み特別講座（たのしいキッズセミナー）
 - コ 科学教育の普及・啓発助成事業（補助）（サイエンスキッズ）
- ④特別支援教育に関する事業
 - ア 中原区子どもの発達支援事業（中原区保護者ミーティング）
- ⑤体験活動等に関する事業
 - ア ふれあい体験事業（自主）
- ⑥研究研修等に関する事業
 - ア 自主研究（自主）
 - イ 川崎市教育会館運営管理業務
- ⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
 - ア 臨時的任用教員等研修事業
 - イ 教育活動サポーター配置事業
 - ウ 特別支援教育サポーター事業
 - エ 営繕業務委託
- ⑧講演会等の企画運営に関する事業
 - ア 文化講演会事業（自主）
- ⑨文化・スポーツ活動の推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館管理運営業務（共同運営）（海老沢）
- イ 適応指導教室あさお体験広場に係る運営管理業務（のびのびファーム）



「川崎教育活動」で検索！

大山街道ふるさと館

年4回、記念講演会とふるさと探究講座は各3回実施します。街道学習講座は春と秋に各3回、ふるさとまち歩き講座も2回実施します。

小学3〜6年生対象の子ども探検クラブや出前授業、中学生のふるさと発見講座、夏休みキッズウイーク等、地域学習の支援をします。そして、秋と春の館まつり、ぶらり散歩やまちなみツアー体験講座は、コロナウィルスの制限緩和により本来の内容で実施できそうです。また、市民ミュージアムとの連携をさらに深め、多様な企画展、講演会、ホームページや広報の充実を図っていきます。(石川)

教育会館・教育相談

教育会館は教育関係者の会議場として、多くの方に利用されています。空調設備等の整備も進み、夏や冬も快適に使用できるようにしました。運営にあたっては、現職向けの研修会や教育相談も担当することで、教職員の活動を支援しています。

今年度も「文化講演会」「パネルディスカッション」「教育課題研修会」を企画します。今後も充実した教職員向けの研修会を行います。また、現職の皆様との相談を受けつけています。いつでも、お気軽にご相談ください。(永田)

臨時的任用教員等研修事業

平成30年度より教職員の資質向上の一環として臨時的任用教員等に対して研修を行うようになり6年目を迎えるようになっています。今年度川崎市で初めて採用された臨任者と中学校での一人配置の初任者(正規職員)を巡回の基本対象としています。また、学校長からの要望により、経験のある臨任者や非常勤講師に対しても本研修が適用され、幅広い研修として実施しております。

研修サポーターが学校へ伺い、授業を見た後、様々な視点から研修者に対して指導・助言を行っています。研修の機会が少ない臨任者にとって非常に有効な研修となっています。(前川)

学校サポーター配置

川崎市立小・中・高等学校の指導補助者(サポーター)に関わる事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。大学生を中心に、教員経験者、地域の協力者の700人の方々が、様々な教育活動のサポーターや特別支援教育のサポーターとして、市内の小・中学校・高等学校に配置されています。それぞれ学校の状況に応じた支援活動に努めています。

各学校からは、サポーターへの感謝とともに、日々の支援活動に大きな期待をいただいています。(松井)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けと収穫など食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右されますが、昨年度はジャガイモの収穫時に、熱中症の危険があり、収穫体験を一部中止しましたが、その他の植え付け、収穫体験は実施することができ、子どもたちは大喜びでした。(前田高)

令和4年度自主研究

子どもたちの成長を応援する関わりをするために、4年度から2年間の研究に取り組んでいます。初年度の昨年は子どもたちの声を集めることに重点をおき、研究部員が日常の中で耳にしたり感じたりしたことを中心にまとめました。

サポーターセンターに通うわけ、学習のことや先生のこと、友だちや自分自身、家族に対する思いなどが集まりました。子どもたちの気持ちを考える手がかりを得られたと思います。しかし、それが本心かどうかはわかりません。なぜ、そう考えているのかを考えることが、子どもたちの声を聞く上で大切であることが分かりました。

本年度は、研究部員以外のスタ

子どもの声から不登校を考える

子どもの成長を応援する関わりをするために

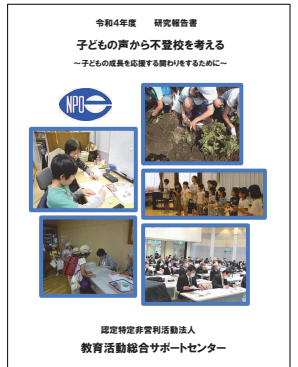
ツフに協力を仰ぎ、さらに多くの子どもたちの声を集め、その声の背景を考えるべく、実践事例の検討を進めたいと思います。

さらに、令和2年に文部科学省が不登校の子どもの対象に行ったアンケートを参考に、子どもアンケートの実施も考えてみたいと思っています。

研究報告会から

雪の跡が残りに、コロナが収束しない中、百余名の方々が参加してくださいました。

3時間にわたり、「もう一度、みんなで不登校を考えよう」というテーマのもと沢山の質問や感想が寄せられました。



その一部を紹介いたします。「教育活動総合サポートセンター」の、2年間の研究の半ば一年目の報告でしたが、子どもたちのことを考えて関わられている様子がよく分かり素晴らしい内容でした。シンポジウムでの、それぞれの立場からの提案では、保護者側の思い、支援教育コーディネーターの役割や校内運用、SSWの人材確保や手続き等の簡略化により、学校も利用しやすくなるなど、様々な分野の方のお話が聞けてよかったです。最後に発言された保護者の悲

★不登校や学習不振などに悩む子どもも本人やその保護者が抱えている困り感、不安などについて、経験豊かな相談担当者が一緒に考え、解決に向けて支援しています。対象者は、小・中学生を中心に、その保護者、学校関係者などです。学習支援については、担当者と連絡を取りながら、個別に学習支援を行っています。相談や学習支援を希望される

教育相談案内 044-877-0553

★「支援を必要とする子の保護者の会」を、開催しています。保護者同士で情報交換をしたり、体験者から話を聞いたりする場を、今年度も計画しています。詳細は当サポートセンターのホームページをご覧ください。(渡邊)

方は、お気軽にお電話ください。
電話受付 月～金曜日 9時～17時



学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

好きなサポートセンター

ぼくはサポートセンターに来るのが好きです。それは、先生に何でもしゃべるし、何でも聞いてもらえるからです。

あと、勉強すると、「ああ、そうか。」とか「ああ、そうだったのか。」ということがわかるとうれしいからです。

ほかに、もんだいプリントにキヤラクターとか、動物とか、落書きをしてもいいからです。

(小2 I・M)

行きやすいサポートセンター

サポートセンターは、不登校でも勉強や遊びができ、行きやすいところだと思います。

ここでの勉強は、ぼくの希望にあるていど合っていました。1人で進めることができ、やりやすいです。

サポートセンターは、たった1時間なのに、ボードゲームなどがあるのはうれしいです。勉強に関しては、たくさんやるとしたら、学校と同じくらいです。だから安心する場合があります。

(小5 Y・A)

サポートセンターのサポート

私は、サポートセンターに通って6ヶ月くらいが経ちました。週

中2の6月に突然学校に行けなくなった息子と共に、「こどもサポート宮ノ下」に初めて伺ったのは、夏休みに入る少し前でした。週2回通うことをその日のうちに決めて帰宅。八方塞がりの状況を少しでも変えたいという思いから

息子の歩幅で一歩ずつ

息子の歩幅で一歩ずつ

息子の歩幅で一歩ずつ

息子の歩幅で一歩ずつ

(保護者 K・M)

今と将来

ぼくは、サポートセンターでは数学と英語の学習をしました。中学3年生になると数学や英語のレベルが上がって難しくなりますが、自分に合わせたペースで教えてくれたので、学習が身に付きやすかったです。授業の最後に、趣味である鉄道について先生と話すことが多くあり、一番楽しい時間でした。

もうすぐ高校生となり、新しい学校生活が始まります。不安もありますが、将来に向かって前向きに生活していきたいと思っています。

私が頑張っていること

私がサポートセンターで頑張っていることは、英語と社会です。初めの頃は、英語は読めなかったり、書くことが難しかったり、社会では昔に何があったかわからなくて、こんがらがることがありました。でも先生に優しく丁寧にわかりやすく教えてもらったおかげで、最初は苦手だったけど、今では「なるほど」と、意味が理解できることが多くなっています。これからもびっくりしています。これから

も頑張りたいです。先生達には感謝しています。

(中3 I・Y)



これまでと、これから

私は、学校にも通いながらサポートセンターで9年間学習してきました。初めての学習は、小学1年生の時でした。

最初、一対一で進める学習には不安がありました。サポートセンターの先生方に算数・数学・英語などの教科を覚えていただき、今年3月、高校に合格することができました。これまでの学習や様々な活動を基に、高校ではさらに専門的な学習をすることを楽しみにしています。

先生方、ありがとうございます。(中3 Y・R)



こどもサポート宮ノ下

サポートセンター開設以来、不登校など支援を必要とする子どもの学習支援や保護者の相談活動を続けています。

学習面では、子どもの気持ちに寄り添いながら一対一で学習支援を行い、安心して過ごせる時間となるよう努めています。自分に合った学習や支援者との交流が、子どもを支える力になっているのを感じ、励まされています。

教育相談は電話やメールで受付し、面談を実施します。子どもや保護者の方の声を聞き、よりよい支援を考え、その実現を目指します。(保崎)

学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生ですが、令和元年6月から新

公立高校	全日制	15人
	定時制	6人
	通信制	
	その他	1人
	小計	22人
私立高校	全日制	3人
	定時制	
	通信制	1人
	その他	
	小計	4人
その他		3人
合計		29人

に小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の中学生も対象になりました。今年度も、昨年度と同様に川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員（教員OB）を中心に、学習サポーター（教員OBや市民、大学生等）が子どもたちの学習支援にあたっています。

令和4年度の中学3年生の進路状況は次のとおりです。（渡邊和）

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には子どもたちがつけてくれた愛称があります。「STEP&GO」です。不登校や引きこもりの子どもたちが安心して過ごせる居場所であり、自信をもって巣立っていける場所であることを目指して12年前に川崎区の委託を受けて開設しました。年々、利用者が増え、令和4年度もたくさんのお小・中学生、高校生（相談のみ）が利用しました。週4日（月火水木）10時～16時、学習、スポーツ、ゲーム、調理、園芸、読書、茶道など、旭町こども文化センター3階で楽しく活動しています。（小島）

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として、子どもたちが一歩踏み出す事ができるようにと応援してきました。自分で決める力は大切です。目標を持つて学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、物作りで力を発揮する子、ゲームや卓球で人と関わりを学ぶ子。そのやり方は十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆつくりと力をつけ、自信と心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。（前田純）

たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展・体験学習などを取り入れた公開講座です。4日間で午前と午後21講座が開催され、延べ7000人余りの児童が参加しました。今年度もコロナ感染防止のためマスクの着用、密にならない会場設計など感染防止対策を徹底して実施しました。楽しい国語・チャレンジャー算数、おもしろ科学、楽しい音楽など全ての講座が実施されました。子どもたちにとっても皆と関わり合いながら楽しく充実した講座となりました。参観の保者の方も子どもたちの学びの姿を見て、顔があふれていました。（秋場）

地域の寺子屋

平成26年「子どもたちが夢や希望を持つて前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- 子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- 地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることにより、地域の教育力の向上を図ります。
- シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくれます。

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動は、今年度で18年目になります。昨年度の出前科学教室は、感染症防止に努めながら、3校で5回延べ1200人が参加され、とても楽しいとの感想を頂きました。

キッズセミナーと冬のサイエンスキッズでは、延べ313人の参加がありました。た。「空気をほうを作った遊ぼう」では、新開発の教材も取り入れた活動となりました。参加された皆さんの元気な姿に励まされて、今年度も、子どもたちと一緒に、自然の事物・現象を考えつつ、楽しい物づくりに取り組みます。（志村）

②活動内容

週1回の学習支援と月1回の体験活動、世代間交流を基本に活動しています。特に体験活動として、竹とんぼづくり、版画教室、ペンシルロケット、パラスポーツなど、教室独自の工夫で行われています。

令和4年度はコロナ禍の中でも感染予防策に努め、通常の形に近い活動ができました。思いのままの寺子屋でもマスク姿の子どもたちが楽しそうに取り組んでいます。（藤田）



外国につながる子ども向け寺子屋

今年度から「外国につながる子ども向け寺子屋事業」として、幸区において東小倉教室、幸町教室を開室します。教室では地域の市民サポーターのご協力を得ながら、子どもたちのニーズに応じて日本語や教科学習を支援します。子どもの生活言語習得には目を見張るものがありますが、教科書が読めなくても意味がわからないなどの困り感もついています。教室ではお楽しみ会などを企画し、楽しく安心できる居場所となるよう務めます。（堤・保崎）

編集後記

今年度はサポートセンターが設立されて20周年になります。近年、先行きが見えない社会の状況や、教育現場の様々な課題が問題となっています。また、不登校の様相や考え方も多様になってきています。そのような中で、サポートセンターの設立からの理念である「子どもたちに力」を合い言葉として、さらに前進していきたいと思っております。どんなに社会状況が変わっても、子どもに寄り添い、子どもとの信頼関係を築き、成長を後押しして応援していくことがサポートセンターの役割であることは変わらないことだと思います。今年度を新たな第一歩としていきたいと思っております。（海老沢）